

科目名	コミュニティ防災	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	生田 英輔（生）他
英語表記	Community Based Disaster Management						

●科目の主題

頻発する自然災害に対して、レジリエントな地域づくりがわが国の課題となっている。今後懸念される巨大複合災害には従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの力を生かしたコミュニティ防災が重視されており、本講座ではコミュニティ防災の基礎となる災害事象とコミュニティ防災を実践する上での基礎素養を学ぶ。

●科目の到達目標

コミュニティ防災においては、災害時における被災者の視点および対応者の視点が必要である。本講座では災害事象のメカニズムと被害・対策、人間行動、防災計画、災害弱者、災害医療、災害ボランティア、地域福祉、レジリエンス等の理解を目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- 第1回 防災士の役割 森 一彦（生）
- 第2回 避難と避難行動 佐伯大輔（文）
- 第3回 近年の自然災害に学ぶ
重松孝昌（工）
- 第4回 地震のしくみと被害
三田村宗樹（理）
- 第5回 耐震診断と補強
谷口与史也（工）
- 第6回 土砂災害と対策 大島昭彦（工）
- 第7回 災害情報の発信と入手
吉田大介（創）・
米澤 剛（創）
ラガワン（創）

第8回 身近でできる防災対策

渡辺一志（健）
生田英輔（生）

第9回 災害医療

山本啓雅（医）

第10回 災害とボランティア活動

岩間伸之（生）
野村恭代（生）

第11回 火災と防火対策

重松孝昌（工）

第12回 都市防災

重松孝昌（工）

第13回 被害想定とハザードマップ

生田英輔（生）

第14回 災害と流言・風評

佐伯大輔（文）

第15回 地域の自主防災活動

生田英輔（生）
佐伯大輔（文）

●事前・事後学習の内容

事前学習として教材の該当講を読了しておくこと。事前学習には90分程度の時間を要する。事後学習として教材及びレジュメ・資料等を整理、確認したうえで最新の災害事例の情報をまとめること。事後学習には90分程度の時間を要する。

●評価方法

小レポート3回およびレポート1回により評価する。最高点を100点として、60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

講義は非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた

多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃からコミュニティ防災について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

なお、本科目は、日本防災士機構の「防災士養成講座」として認証されており、受講者は、本科目を受講することで、防災士資格取得の要件の一部を満たすことができる。防災士資格取得については、初回の授業で説明する。

●教材

講義では、「防災士教本」を教材として用いる。毎回の講義はもちろんレポート課題も教本に応じた内容とするため、受講生は全員購入すること。防災士教本は生協・書店等では入手できないため、購入に関しては初回の講義で案内する。加えてスライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリント配布を行う。より講義内容の理解を深めるために参考文献を購入しても良い。

【教材】→ 購入は必須

- ・防災士教本 頒価 3,000 円

【参考文献】→ 購入は任意

- ・いのちを守る都市づくり【課題編】

東日本大震災から見えてきたもの、大阪
市立大学都市防災研究グループ編、大阪
公立大学共同出版会、

ISBN978-4-901409-89-6

- ・いのちを守る都市づくり【アクション編】

みんなで備える広域複合災害、大阪市立
大学都市防災研究グループ編、大阪公立
大学共同出版会、

ISBN978-4-901409-98-8